

平成29年度第2回利用者懇談会開催結果概要

- 1 日 時 平成30年3月7日（水） 13:30～15:00
- 2 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
- 3 出席委員 石川委員、遠藤委員、小林委員、近藤委員、杉山委員、鈴木幸委員、鈴木孝委員、松岡委員、若尾委員
欠席：鈴木多委員、近委員
事務局 澁澤所長、瀬山コーディネータ、永田副所長、都築担当部長、小関担当課長
- 4 あいさつ 澁澤埼玉県男女共同参画推進センター所長
- 5 議 事

（1）平成29年度事業実施結果について

平成29年度の事業実施結果について、資料に基づき澁澤所長が説明

【質疑・意見】

委員

小児医療センターとの共催講座が3回行われ、小児医療センターを利用する方にとってこのセンターが身近なものになってきて良いことだと思うが、男女共同参画の視点がどこにどのように入っているのかわかりづらい。

事務局

同様の御質問をいただくことが多く、課題である。センターを初めて知る方がほとんどなので、対象の方にふさわしいと思われる本のリストを作り、図書の展示を行うことによって、セミナーに来て、本や情報があることを知っていただきつながっていくことでまずは第一歩の講座と考え実施しているものである。

ダウン症のセミナーなどは、ダウン症のお子さんを育てている親がお子さんと一緒にいらっしゃっているが、講座の後に医師との面談を含めた少人数の相談会もあり、先生とゆっくりお話ができるということでとてもいい講座にはなっている。あと一歩、何かインプットできるといいと思う。

委員

小児医療センターでママたちが寄り合ってしゃべるスペースが前より狭くなった。そういう中で With You みたいなスペースがあればいいのという話がある。そういう人たちに来ていただければ、ママたちの声も聞いていただけたらと思う。

委員

女性チャレンジ支援事業の参加者の人数をなぜそこだけ延べ人数にしているのか。また、仕事準備講座の第二期のところでセミナーに参加できる人がおおむね40歳以下の人という縛りがある。社会的な問題で80歳の親と50歳の子供という8050問題もあり、40歳で縛りをつけるのはどうかと思う。

事務局

延べ人数の件は、たとえばグループ相談会5月～3月で11回やっているが、1人の人が連続講座で10回参加するのではなく、参加したい回に参加する形になっているので延べ人数で記載している。書き方の統一がされていなかったということで修正したいと思う。

年代の縛りについては、若年期にある無業の女性がピアとして出会う講座という形で行っているので、親の介護をしている方と若年者で悩んでいる方とは悩みが違ふだろうということで、年代の縛りをつけている。

委員

1期、2期あるのであれば、片方は縛りをつけてもいいが、もう片方は縛りをなくすとか対応をしないと、応募用紙を見たら40歳までと書いてあるので、50歳であきらめる人も多いと思う。

委員

第1期はまだ働いたことが無く社会は怖いというピアな方たちで話ができしたが、第2期は年配の方が混ざったら「そんなのあたりまえ」みたいに話を切られてしまい、若者が委縮して話せない雰囲気になってしまった。

委員

そういうのを乗り越えるための準備なのではないか。

委員

仕事準備の認識の違いがあると思う。1度社会に出たことがある方は、ワークステーションさいたまや女性キャリアセンターなどの就労支援のサポートを受けた方がいいということだと思う。ターゲットでない人には、年齢だけでなく「自分はここじゃない」と思わせる告知をすとか、女性キャリアセンターの講座を紹介すとか、そういう形でやっていけばよい。

委員

10回は長いと思った。チラシによると半歩出ようという趣旨だと思うが、そういう人たちが10回は長いと思う。好きな時に出ればよいという考えがあると思うが、もう少し短期で何回かに分ければよいのではないか。

事務局

10回の内容は毎回同じではない。パソコンや面接体験をしたり就労体験という今年度はクッキーづくりをやっていただいたが、幅広いことをやっている。アンケートの結果はまだこれからだが、10回が長いという意見は聞いていない。

委員

就労体験で農業があったが仕事の内容が草刈りと書いてあった。もう少しいいアイデアがあればよかったと思った。

事務局

若くて仕事に就けないということだけではなく本人が生きづらさや働きづらさを感じているからなかなか踏み出せないという方の講座なので、あまりハードルを高くしてしまうと難しいというところもある。

委員

若年無業女性にターゲットが当たっている事業で、その趣旨が分かるような募集や告知の仕方を工夫し、子育て期や少し年齢が上の人の就業の悩みについては別の手だてを紹介する方向がよい。家からあまり出られない方が次から来られなくなることはないように、わりとゆるい講座になっているのだと思う。社会参加するきっかけづくりの意味合いもあっていろいろな体を動かす体験を入れているのかと思う。年齢差別されたと思われないようなコンセプトが必要。

委員

情報ライブラリーでの本の年間購入数、貸出件数、新規利用登録件数が経年変化でデータがあるとよい。男女共同参画という活動は長年の積み重ねがあると思う。講座についても5年前10年前があるからこそ今があるというものがたくさんあると思う。講座の理念的なものがなにか表現されているといいと思った。

事務局

毎年統計は取っているが、単年度の結果を記入してしまっている。例えば28年度は、貸出人数は1,598人、貸出冊数は3,926冊である。経年でみると、ここ7~8年はそれほど大きな変動はない。横ばい状態である。

委員

ここは専門図書館なので貸出冊数が多ければいいというものでもない。講座と所蔵している本をどうつないでいくかが大切。情報ライブラリーの資料費、つまり古い本を処分して新しい本を買っていく、人間でいうと血液みたいなもの、そういう新陳代謝みたいなものがあると、来館者と本をつないでいくきっかけができていくと思う。

事務局

図書は経年でいくつかわ変化をとるといろいろと見えてくることがあると思うので、事業概要に書ける部分で経年データを入れるということを今後検討したい。

委員

フェスティバルの実行委員の人数がギリギリのようで、3日間ここへ来ることが負担だという声もあるようだ。規模をこのままでいくのかどうか、参加団体は現在51団体であるが団体の数は現状維持か、何か情報があったらお聞きしたい。

事務局

基本的にはフェスティバルの内容や開催期間は実行委員会の中で決めていただく。そのために必要であれば参加団体からのアンケートを提示したりしている。

現在51団体であるが2日間で部屋や時間数の御希望をようやく入れ込めている状態。新しい参加団体に増えてもらいたい思いはあるが、新しい団体を増やすにはどこかの団体に遠慮してもらうことにならざるを得ない。まだ参加されたことのない市町村や県内の男女センター、出ていただきたいと思う団体もあるので、今後どう調整していくか考えていきたい。

委員

51団体もあるのであれば、春と秋のように分散すれば賄えるのではないか。

事務局

長期の時間をかけてやる形式になっている。7月に団体を公募し、8月にかけて内容を考え、9月にはワークショップ案を出していただき、そこから詰めていくという形。県がやっていることから年度をまたぐのが難しいということもある。2月は雪も降るので2月がいいのかというところはあるが、現状のスケジュール感を考えるとなかなか動かすのが難しい。ご提案いただいたような年2回ということは、やり方の形式そのものを含めて再考の必要がある。検討の余地はある。

委員

ほっと越谷はどうか。

委員

フェスティバルは、市の男女共同参画推進条例ができた時を記念して行っているので7月ということは決まっている。そのための準備は、3回実行委員会があるが、4月に1回話し、5月の初めと終わりで調整し、6月の末にオープニングイベントを実施する。北越谷駅の西口の大きな公園で催したものをそのままスタンプラリーでほっと越谷の方へ誘導する形で行っている。7月の1日から1週間、登録団体の方々が講座や展示を行う。4月から始まって3か月かけて準備し、7月に実行する。期間は決まっているのでずらさない。登録団体の方もかなり積極的に参加している。

委員

登録団体は多少出たり入ったりしているのか。

委員

多少出たり入ったりしている。期間を短くすることはできないのかという意見もあったが、登録団体が50団体あるので展示や講座で枠がいっぱいで1週間はかかってしまう。セミナールームが2つしかないので、みんなが競争で取り合う状態になっている。

委員

フェスティバルに参加した感想として、来場者数が予想していたよりさみしいという感じがした。駅前や小児医療センターなどいろいろなところと協力しながら、もう少し人の流れがあってもいいと思った。中身については実行委員がやっていくとしても、バックアップについて、もう少し何かあってもいいと思った。

また、交流コーナーの利用者数は統計を取っているのか。開放している部分が

もう少し有意義な形ができるのではないかと思っている。勉強している学生がメインで団体の打ち合わせに来てもテーブルが開いていないとか、しゃべっていると周りが勉強しているからどうかしらということもある。3階、4階あるので、勉強できるコーナーと分けるなどもう少し何かできないかと感じている。

事務局

本当に多くの学生さんを中心とした方々が利用している。ここの本来目的である交流やおしゃべり、ミーティングにもっと使っていただければいいと思っている。登録団体は一部についてご予約をいただければそこを取っておくという対応をしているので、積極的に使っていただければと思う。場合によっては一部勉強スペースにしてしまうというのもアイデアとしてはあるのかどうか、どうすればよいかいろいろご意見をいただければと思う。

委員

テーブルの数も少ない。もう少しスペースを有効活用する形で、名称も本当に男女共同参画の方が活用できるスペースにしてしまって学生が自由に出入りしにくいスペースにするといいのではないか。できることなら、団体としてオフィスを持つまでもなく、まずは1人2人のグループから活動を始めた方が、コワーキングオフィスのようにそこに来て毎日そこで仕事をしたり、一緒にやりたい人と打ち合わせができるようなスペースがあるといい。企業家さんたちが隣で作業しているだけで知り合っていたり、相乗効果で新しいものが生まれたりする。なにかそういうのができたらいいと思う。Wi-Fiがあったり何か繋がれるネタがあれば、いろいろな人がここに来てくださりまたそこから広がれると思う。

委員

本来の目的として施設を使える人たちが胸を張って使えるような環境にしてほしい。

委員

さいたま市のサポートセンターは、今ここを使っている団体はこういう団体であると自分で書く形になっている。そういうのがあると隣を見てつながるきっかけとなる。そういう場所をつくと今こういう団体がここで作業していますということが見え、つながりやすくなる。

委員

学生をむげに排除したくないという気持ちもあるのか。

事務局

学生がここを気に入って多数来てくださるという現状はある。学生が自由に利用できる場所としてこういう場所を使っているのかなと思いつつも、やはり本来目的の利用ではないということは感じている。

男女共同参画推進センターの中でコワーキングスペースとして活用されているセンターとしては、札幌市の男女センターが非常に積極的にやっている。出合いがあるようなスペースになるとより良いと思う。

委員

本に囲まれることで、男女共同参画のスペースなんだと思う。コワーキングスペースになったら、情報発信のスペースということで参考図書に囲まれたと思う。

委員

少し家具を購入するとか予算のかかることであるが、ニーズがあるということが分かった。

(2) 平成30年度事業計画について

平成30年度の事業計画について、資料に基づき濫澤所長が説明

【質疑・意見】

委員

女性の貧困問題講演会が新しく実施されるようであるが、女性の不妊治療と仕事の両立というのが非常に社会問題になっているので、事業の中に加えていただければと思う。

事務局

不妊治療については扱うべき課題でありいろいろ考えていかなければいけないテーマであると感じている。不妊治療については医療者側からの情報提供だけでは足りないと思っている。色々なことをざっくばらんに話すことのできる場が必要。子を持たない暮らしというのがマイナスと感じている人も依然として多い。県が不妊治療関係の講座をやっていくときに、不妊であることが困難であるということを上塗りする形でないメッセージ発信をしていきたいと思っている。少し検討したい。

委員

不妊治療を行っている間は、同じ境遇の方と相談し合える関係であるが、妊娠すると卒業していくというような非常にセンシティブな問題である。非常に難しい問題ではあるが、困っている方々はいるので、センターが独特な視点での支援ができるのであれば、ぜひやっていただきたいと思う。

委員

ここは男女共同参画の意識の高い方が多いから良いが、職場では不妊治療をやっていると一言も言えないと思う。仕事と両立できないからやめてしまう。そういう関係の講演会があればよりいいのかなと思う。

委員

女性に対する暴力をなくす運動でこのセンターもライトアップしているがちょっとさびしい。まず外から見えない。この運動は認知度が低いこともあり、年1回のことなので、外から見たときに「なんで紫なんだろう」ときっかけづくりができるよう、全館上げてもう少しライトアップできないか。

事務局

小児医療センターのカリヨンの木もその日だけは紫色にしてもらった。今年は初めてだったが、来年はもう少し長く協力いただけるようお願いしてみたい。館内は、展示部分とスポットライトで紫色にライトアップした。

委員

小児医療センターでは、紫色にライトアップしているのはこういう意図ですよという広告はしたのか。

事務局

広告はしていない。内閣府のホームページでやっている場所も掲載され広報はされている。

委員

地図見てわざわざ行かない。アプローチとしては、ライトアップを見て「なんで紫なんだろう」となることが重要。

委員

越谷の駅前でパープルリボンの掲示をしている。駅前でパープルリボンなどいろいろ集めて展示しているので、こういうことが問題ですよとアピールできる。センターの中でないところで展開できると、目に付いていいと思う。

委員

クッキーにその週間だけ紫色のリボンを貼って販売して、「何？」と聞いてもらえたら、こういう週間ですよ、隣に行くとありますよと案内できる。大学の生協などでも紫色のリボンを貼った商品がその週間だけ売られるとか、なにかもつとアピールしたらいいと思う。

委員

では、来年度検討をお願いしたい。

それでは、議事は以上で終了し、進行を事務局に返します。

事務局

- ・ 本日の意見は今後のセンター運営の参考にさせていただきたい。
来年度も引き続き委員をお願いする。第1回目は秋ごろ開催を予定している。
- ・ 以上で本日の懇談会を閉会させていただく。